

2022年12月20日

Green Earth Institute 株式会社

**「Jパワーと「タイ国におけるオイルパーム廃木を活用した化学品及びペレット生産を行う複合事業に関する調査」を開始**  
～ 非可食バイオマスを活用した複合事業に関するフィージビリティスタディを実施 ～

Green Earth Institute 株式会社（以下「GEI」）と電源開発株式会社（以下「Jパワー」）は、2022年12月12日、タイ国のオイルパームプランテーションで発生する非可食バイオマスを原料とした、グリーン化学品及びバイオ燃料生産を統合した複合事業の実現に向けて、オイルパーム廃木を活用したペレット生産に関する調査契約を締結し、本件調査を開始致しました。

パーム油は、世界で最も多く利用される植物油であり、その用途は食用、洗剤、化粧品等広範囲に広がっています。他の植物油と比べて低価格であることと単位面積当たりの収量が多いため、その需要量と生産量は年々増加しており、2022年の世界生産量は7900万トンを超えると予想されています。<sup>※1</sup>

こうした莫大な世界需要を支えるオイルパームプランテーションでは、パーム果実の収穫量を維持するために定期的な植え替えが行われており、毎年大量のオイルパーム廃木（OPT<sup>※2</sup>）が排出されています。通常OPTは細断されたうえでプランテーション内に埋め立てられていますが、不適切な処理を行うと温室効果ガスや病害虫等の発生を誘発するため、適切な利活用が求められています。

この度の調査では、OPTに含まれる樹液を原料とした発酵による化学品生産とOPTの繊維部分を原料とした燃料ペレット生産を統合し、より多くの収益を上げる複合事業のフィージビリティスタディを実施します。こうした複合事業の取組みは、これまで廃棄されてきたOPTを有効に活用し、バイオ燃料や高付加価値化学品へのアップサイクルを実現するものであり、全世界で使われているパーム油の生産を支えるパームオイル産業の健全な発展に寄与するものと期待されます。

今回の契約締結は、バイオリファイナリー技術を有するGEIと、「J-POWER “BLUE MISSION 2050”」において2050年までに発電事業のカーボンニュートラルの実現を目指すJパワーが、OPTを活用した複合事業に関する検討を共同で実施するにあたり、合意に至ったものです。

GEIは、「グリーンテクノロジーを育み、地球と共に歩む」を経営理念(ミッション)として、地球の様々な問題の解決に取り組んでおり、今回のJパワーとの調査事業を通じて、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取組みを進め、脱炭素社会の実現に貢献して参ります。

本件による当社業績に与える影響は軽微ですが、今後開示すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

※1 [US Department of Agriculture "World Markets and Trade"](#)

※2 Oil Palm Trunk (オイルパーム廃木)